

本講の目的は、既にマクロ経済学を学んだ人を対象に、実際の事例を通じてマクロ経済学を現実にどのように適用していくかを学ぶことです。本講では特に最近話題になっているトピックを取り上げて、マクロ経済学への理解と応用力を深めることにします。具体的には、経済成長、景気循環、失業、インフレーション、財政政策、金融政策、金融市場、グローバル化と国際金融に関する問題を取り上げます。

本講の特徴として、2008年の金融危機など多くの人が関心を持っていると思われる最新の話題を取り上げ、日本ではまだ広く知られていない新しい視点での問題分析例を知ることができます。

- - - 到達目標 - - -

本講の受講を通じてマクロ経済学を現実に適応して考えられる能力を持つことができます。特に、最近大きな話題になっているマクロ経済問題を理解し、その解決のためにどのような選択肢があるかについて、経済専門家の見方ができるようになります。

- - - 事前・事後学習(予習・復習) - - -

事前に授業計画に記載された各授業内容に関連する練習問題をF Uポータル経由で配信します。事前学習としては、教科書を読んで、練習問題を自力で解いてみてください。事後学習としては、受講後に各授業内容に関連する練習問題を解いて授業の内容理解を確認してください。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

成績評価は定期試験の成績のみ(100%の比重)で評価します。

評価基準としては、教科書の内容について基本的な理解がなされていること、具体的には練習問題を解答できることが基準になります。

- - - テキスト - - -

ロジャー・L・ミラー&ダニエル・K・ベンジャミン著、高瀬光夫訳「マクロイシューの経済学」、ピアソン桐原、2010年。¥2,310、ISBN: 978-4-86401-014-6

- - - 参考書 - - -

Macroeconomics, 7th ed. ISBN 9780136114529

- - - 履修上の留意点 - - -

マクロ経済学の基本を理解していることを前提に授業を進めます。ミクロ・マクロ経済学の基礎知識以外は、特に受講にあたっての留意点はありません。

以下は暫定的な授業計画ですが、時間制約などから変更の可能性あります。

- 1 マクロ経済学的視点での問題の捉え方
- 2 豊かな国、貧しい国 (第1章)
- 3 ラッダいの帰還；技術進歩恐怖症と経済成長 (第2章)
- 4 ライオンとドラゴンとタイガー；アジアの経済成長 (第3章)
- 5 海外アウトソーシングと経済成長 (第4章)
- 6 貧困と資本主義と経済成長 (第5章)
- 7 GDPの測定 (第6章)
- 8 「景気後退」の判定は難しい (第7章)
- 9 2008年金融危機 (第8章)
- 10 統計から姿を消す労働者たち (第9章)
- 11 貧困と富と格差 (第10章)
- 12 これからインフレになるのか、デフレになるのか (第11章)
- 13 実質か、名目か (第12章)
- 14 大きな政府の拡大 (第13章)
- 15 負債と赤字 (第14章)
- 16 負債と赤字の国際比較
- 17 将来、税負担は重くなる (第15章)
- 18 金持ちから吸い上げろ (第16章)
- 19 社会年金の俗説 (第17章)
- 20 重税の弊害 (第18章)
- 21 連邦準備制度と金融危機 (第19章)
- 22 金融政策と利子率 (第20章)
- 23 住宅ローン市場の混乱 (第21章)
- 24 預金保険と金融市場 (第22章)
- 25 市場を出し抜く(出し抜かない)方法 (第23章)
- 26 クレジットカード危機 (第24章)
- 27 グローバル化への反対運動 (第25章)
- 28 75万ドルの職業 (第26章)
- 29 貿易赤字 (第27章)
- 30 ドルの価値 (第28章)